

ピースウィンズ・ジャパンの活動にご協力を

PWJは、今年も、紛争や貧困、災害などに苦しむ世界各地の人びとの支援を継続します。なかなかメディアで取り上げられることのない地域や、安全確保に十分な配慮が必要な地域もありますが、「必要な人に、必要な支援を」を目指して活動します。皆様のご協力をお願いいたします。

【郵便振替】
口座番号：00160-3-179641
加入者名：ピースウィンズ・ジャパン

* 特定の地域へのご支援をご希望の場合は、通信欄に国名を明記してください。
* ハイチ地震被災者緊急支援事業の4月以降の継続は未定です。事業終了後にハイチへのご寄付をいただいた場合、PWJ活動全般へのご寄付として活用させていただく場合があります。

【銀行口座】
銀行名：三井住友銀行青山支店
口座番号：普通 1671932
口座名義：特定非営利活動法人
ピース ウィンズ・ジャパン広報口

*銀行からの募金・寄付は、PWJ活動全般へのご支援として、活用させていただきます。また、銀行振込の場合、ご住所がわからず、領収書・報告書はお送りできません。詳しくは、お問い合わせください。

【ホームページからクレジットカードで】
<http://www.peace-winds.org/>
*「寄付をする」ボタンをクリックしてください。

ピースウィンズ・ショップから

じっと見やましくなりました
オンラインショップサイトにぜひお越しください！

PWJが運営するオンラインショップ「ピースウィンズ・ショップ」では、東ティモール産コーヒーをはじめとするフェアトレード商品、エコグッズ、オリジナルグッズなどを販売しています。

とくに力を入れている東ティモールコーヒーでは、レギュラー粉200g、ドリップバッグ、焙煎豆（オリジナルと深煎り）、近日発売予定のコーヒー生豆などがあり、職場での手軽な一杯から個人焙煎まで、コーヒースタイルに合わせて選んでいただけるラインアップになっています。

季節限定ギフトセットの特集ページや、お買い得商品コーナー、フェアトレードに関するスタッフブログなどもあり、今が旬！という情報を発信。お中元、お歳暮はもちろん、引き出物やちょっとしたギフトに最適なコーヒーギフト、オーガニックタオルギフトなどから、ご希望に合わせたギフトをおつくりすることも可能です。

今後も生産者情報や、ピースコーヒーが飲める＆買えるお店情報など、内容はどんどん充実します。皆さまのアクセス、心よりお待ちしております！

www.peace-winds.org/shop/
電話 0120-252-176 (フリーダイヤル) / 03-6438-9403

ご不要の本・CD、書き損じハガキを 支援者サービスの 窓

ご不要になった本、CD、DVD、ビデオ、ゲームなどをブックオフに買い取っていただき、買取代金をPWJの国際支援活動に役立てていただく「ブックキフ」は、電話またはホームページからお申し込みください（ブックオフでは手続きができませんので、必ずPWJへご連絡ください）。

書き損じや未使用の「官製ハガキ」をご寄付いただく「ハガキフ」は、直接、PWJへお送りください（受領証が必要な方はお知らせください）。

ブックキフやハガキフをはじめとする寄付、サポーター登録など各種のお申込み、お問い合わせ、住所変更などは、下記の連絡先へ。インターネット（ウェブ）からもお手続きいただけます。

電話 0120-252-176
(フリーダイヤル)
03-6438-9402

ウェブ ピースウィンズ 検索 www.peace-winds.org



支援を、ここに

ハイチ地震被災者緊急支援

いたるところに「SOS!」「HELP」

1月21日、ハイチの首都ポルトープランスにピースウィンズ・ジャパン（PWJ）事業責任者の山本理夏、PWJ海外事業部の斎藤雅治、北原聰子が入った。3人の目に飛び込んできたのは、おびただしい瓦礫と、救援を求める被災者の訴えだった。

「私たちはここにいます」
「SOS! 食糧・水・医薬品」

あらゆる街角に、貼り紙やメッセージボードがあった。地面にブロックを並べて書いた「HELP」の文字、屋根に大書した「SOS」もあった。その多くは英語だった。国外からの支援に期待していた。

1月12日（日本時間13日）の地震発生から10日。当初報道されたような暴動や物資を奪い合うような光景はなかった。しかし、支援は行き届いていない。大統領府をはじめ行政機関の建物の多くは倒壊し、行政は機能を失っていた。多くの援助団体が入ったが、テントは底をつき、生産国の中止スタンダードからまとまった数のテントが届くまでには3週間かかる。被災者数は、ハイチの人口の3分の1を超える370万人（ハイチ政府）。17万人が死亡し、100万人が家をなくしたという（国連推計）。被害の大きさに支援が追いつかない。

しかし、町には希望もあった。避難場所では近所の人同士が助け合い、明るい表情さえ見せていました。

PWJは、住居再建を支援するため、瓦礫を除去するための道具類やテントの配布を実施するほか、学校再開のための支援も計画している。

支援のプロを、世界の現場へ

2009年度(2009.2.1~2010.1.31) のピースウィンズ・ジャパン

イラク

1996年のPWJ設立時から活動しているイラクでは、北部のドホーク州、スレイマニア州と、イラク中央政府とクルド政府の境界線上にあって行政からの支援が遅れている地域で、復興支援を続けました。境界線上の地域にある8カ村では、干ばつ対策として、深井戸5本の掘削と水道ネットワークの修復・拡張を実施。人口増加が続き、学校の教室数不足が深刻な問題となっているトルコ国境の町、ザホ市では、とくに生徒数の多い2校で、校舎の修復と増築を実施しました。2007年度から継続しているスレイマニア州東部のハラブジャ母子病院建設では、2010年7月の事業完了を目指して、医療器材の入札なども実施しました。



ザホ市の学校改修工事
改修が進む

アフガニスタン

農業国アフガニスタンにとって、慢性的な水不足への対策なくして復興はありません。中長期的な視点に立った水資源の有効利用のため、PWJでは2003年度から水資源調査事業に取り組み、2008年度からはアフガニスタン事業の中心に位置付けています。2009年度もサリブル川流域での観測とデータ回収を続けるとともに、安全確保に十分、留意しながら、洪水で破壊された河川水位観測網の修復を行いました。また、将来、地域の水資源管理を担うべきサリブル州水資源管理局と協定を結び、職員の能力向上や過去の水係争についての聞き取り調査、灌漑用水路マップの作成などに取り組みました。



水資源観測装置の修復作業

リベリア

リベリアは、緊急支援を必要とする段階から長期的な視野に立った開発事業が必要な時期へと移行してきています。6年目を迎えたPWJのリベリア支援事業は、帰還民・避難民に対する再定住支援を継続しながら、事業終了に向けた準備を進めました。ロファ州では、国立高等専門学校の再建事業を行い、職業科の教室の建設とともに、黒板や生徒用のひじ掛け椅子、実習用の教材や機械などを提供して、実習クラスの再開につなげました。また小学校を4校建設。学校にはトイレと井戸もつくり、維持管理や保健衛生についてのトレーニングも行いました。リベリア事業は2009年度末をもって終了しました。



新規開拓地の完成を喜ぶ
子どもたち

スーダン

2006年の事業開始以来、3度目の乾期を迎え、井戸掘削を中心とした水・衛生事業は対象地域をさらに拡大しました。2008年12月より開始をした井戸建設では、手押しポンプ式の井戸をジョングレイ州ボーア郡に10本、北部アユッド郡に11本、ドゥック郡に2本、東トゥイッヂ郡に5本の計28本を完成させました。2009年後半からは東エクアトリア州マグウェイ郡で11本の井戸を建設。またボーア郡の小学校と診療所にトイレを設置しました。新たに保健事業を開始し、ボーア郡内に井戸・トイレとともに診療所を建て、ベッドや医療用機材も提供しました。医療用機材は、ボーア中央病院にも提供しました。

インドネシア

9月30日、スマトラ島西部沖で大きな地震が発生し、山あいの村々が地すべりにのまれました。PWJは、緊急の現地調査とともに、インスタント麺21,000食、コメ500キロ、魚の缶詰1,440個、飲料水5280本を配布。村の住宅再建に合わせて水道施設の改修を行いうため、現地NGO「ビナ・スワダヤ」との協議を進めました。事業は2010年度も継続します。

緊急の食糧を被災者に渡すPWJ山元



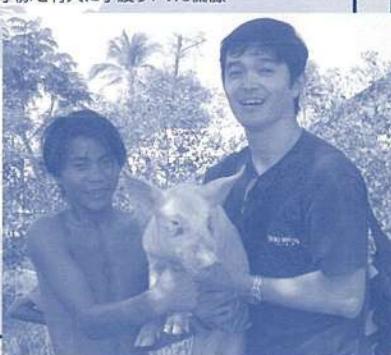
モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホッタイル」から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちに対する支援を継続しました。2010年1月現在、7人がセンターで生活しています。

ミャンマー

PWJは、2008年5月にミャンマーを襲ったサイクロン「ナルギス」の被災者支援を続けてきました。前年度末に完成したボガレ地区イエーチョーカ村の小学校に続き、ダーマラキタ村の学校も3月に地元に引き渡しました。日本人スタッフの駐在は4月で終了しましたが、イエーチョーカ村では災害時に避難場所としても使うことができる僧院の建設支援を継続。村人や地元の大工らの手によって工事は進められ、8月に日本人スタッフも参加して引渡式を行いました。また、被災後、生活が困窮していた、この2村の農地を持たない村人約150人には2月、子豚を配布しました。これらの事業をもってミャンマーでの事業を終了しました。

子豚を村人に手渡すPWJ齋藤



台湾

南投県同富村での被災者の診療 (C)台湾路竹会



8月の台風8号の直撃で大きな被害が発生し、PWJは、人道支援に関する提携を結んでいる現地NGO「台湾路竹会」を通じて支援を行うことを決定しました。南投県同富村などで無料診療所の開設や瓦礫の撤去などを実施しました。

ハイチ

2010年1月12日に発生した地震で、PWJは日本人スタッフを現地へ派遣。住居再建支援などを実施することを決定しました（1面参照）。

（1面参照）

スリランカ

26年間で約7万人の犠牲者を出したといわれる内戦が2009年5月に終結したものの、終結前の大規模な戦闘により、28万人以上が避難民となりました。東部トリンコマレ・ブルモダイの避難民キャンプでは、北部に比べて活動するNGOの数も少なく、水や食糧が不足していましたため、PWJは現地のNGO「ジヤナスワヤ」と協力して、最大時、約4000人の避難民に野菜や魚、豆類を配布。4台の給水車を使用して、最大時には7000人近くの避難民に水を配りました。キャンプは12月に閉鎖されましたが、PWJは帰還した住民約2600家族への食糧配布と250家族への住居建設資材の提供を開始しました。

帰還した村での住居再建支援



東ティモール

2003年から取り組んでいるコーヒー生産者の自立支援について、コーヒー生産による収益で活動を継続できる状況に少しでも近づけるため、2011年までに年間生産量を100トンにするという目標を掲げて、生産者とPWJスタッフが一丸となって増産に励みました。2009年は収穫量が減少する「裏作」の年でしたが、買取価格の引き上げも生産者の奮起を促し、輸出量は、「表作」だった2008年を超える過去最大の58トンに達しました。組織運営面では、さらなる品質向上などをめざし、日本国内でコーヒーなどの販売を行うフェアトレード部が現地の活動も統括する体制に移行しました。

村人と一緒にコーヒー豆の選別
右がPWJ芝田



国内災害

「災害時の支援協定」を結んでいる静岡県袋井市や東京都葛飾区の防災訓練に協力したほか、地震発生時、耐震性の高くなっている木造住宅が密集している墨田区京島地区と専門業者の協力も得られた愛知県半田市岩滑地区で、耐震補強を普及させるためのモデル事業を実施しました。2007年7月に起きた新潟県中越沖地震後、新潟県柏崎市西山町の被災者を対象に実施してきた家財道具保管場所の提供支援は2009年9月に終了しましたが、地域との交流は続いている。

尾道事務所

引き続き地方での活動基盤の拡大に取り組み、新たに産直物産販売を開始。イベントなどを利用したフェアトレード商品の販売や、講演などにも力を入れました。過疎・高齢化が進む山間集落の再生と収益確保を目的とした地域貢献事業の調査も実施しました。